



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社アイリッジ 上場取引所 東  
 コード番号 3917 URL https://iridge.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小田 健太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森田 亮平 (TEL) 03-6441-2325  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	2,424	10.6	△330	—	△324	—	△240	—
2023年3月期第2四半期	2,191	△9.3	△26	—	△23	—	△7	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 △231百万円(—%) 2023年3月期第2四半期 △9百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△33.88	—
2023年3月期第2四半期	△1.04	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	5,479	3,120	55.8
2023年3月期	5,638	3,328	57.9

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 3,054百万円 2023年3月期 3,262百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	10.7	10	△97.4	10	△97.4	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益については、現時点では精緻化が困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	7,166,454株	2023年3月期	7,084,354株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	170株	2023年3月期	170株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	7,110,352株	2023年3月期2Q	7,017,888株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善など緩やかに回復しておりますが、世界的な物価上昇や金融引き締め等による海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっており、依然として先行き不透明な状況が続いています。

当社グループは、「Tech Tomorrow ～テクノロジーを活用して、わたしたちがつくった新しいサービスで、昨日よりも便利な生活を創る～」をミッションとして掲げています。このミッションの下、「OMO事業」として、「アプリ開発×OMO(注)ソリューション」を軸に、企業による顧客とのコミュニケーションや顧客のエンゲージメントを高めるためのサービスを提供しています。具体的には、スマートフォンアプリの企画・開発・運用支援やSaaS型で提供するアプリマーケティングツール「FANSHIP」やアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX(アップボックス)」の企画・開発・運用等のオンラインマーケティングから、イベントや店舗集客促進等のオフラインマーケティングまで、オンライン・オフライン問わず、企業向けにOMOマーケティングの企画・実行支援を幅広く行っています。また、「フィンテック事業」として、地域で発行・利用可能な通貨や商品券を電子化し流通させるデジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」を企画・開発・運用しています。

2024年3月期においては中長期的な成長実現に向けた戦略及びそのための積極的な投資を進めています。「OMO事業」においては、2024年3月期第1四半期より、当社の新たなプロダクトであるアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX(アップボックス)」のサービス提供を開始しています。当第2四半期連結累計期間においては、アプリビジネスプラットフォーム「APPBOX(アップボックス)」への投資の継続に加え、今後の事業拡大を見据えた新規採用などの先行投資を行いました。また、「フィンテック事業」においては同事業の収益基盤を確立すべく、デジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」への投資を継続しました。

以上の結果、売上高2,424,055千円(前年同期比10.6%増)、営業損失330,413千円(前年同期は営業損失26,684千円)、経常損失は324,897千円(前年同期は経常損失23,084千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は240,898千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失7,291千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

以下のセグメント別売上高及びセグメント利益には、セグメント間の内部取引に係る金額を含んでいます。

## (OMO事業)

「OMO事業」においては、オンラインマーケティング(デジタルマーケティング)関連では、スマートフォンアプリ開発やアプリマーケティングを中心としたオンラインマーケティング(デジタルマーケティング)関連の需要は堅調に推移しました。費用面では、一部開発案件の進捗遅延に伴う原価増が発生したことに加え、当社の新たなプロダクトであるアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX(アップボックス)」のサービス提供開始に伴う費用の増加が発生したほか、今後の事業拡大を見据えた新規採用などの先行投資を行いました。オフラインマーケティング(リアルプロモーション)関連では、新規顧客獲得の遅れ等の影響が継続しました。この結果、当セグメントの売上高は2,276,162千円(前年同期比8.4%増)となり、セグメント損失は336,117千円(前年同期はセグメント損失30,117千円)となりました。

## (フィンテック事業)

「フィンテック事業」においては、デジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」の既存導入先を中心に取引が拡大し、順調に進捗しました。この結果、当セグメントの売上高は150,457千円(前年同期比56.6%増)となり、セグメント損失は2,533千円(前年同期はセグメント損失546千円)となりました。

(注) OMO(Online Merges with Offline)とは、スマートフォンアプリ等(オンライン)から店舗等(オフライン)への送客を促すマーケティング施策や、オンラインとオフラインの取組みを融合し、店舗とインターネットの垣根を越えた最適な顧客体験を提供するマーケティング施策のことをいいます。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて159,818千円減少の5,479,066千円となりました。これは主にソフトウェアが285,148千円増加した一方、受取手形及び売掛金が279,116千円減少、ソフトウェア仮勘定が207,615千円減少したこと等によるものです。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて47,822千円増加の2,358,509千円となりました。これは主に預り金が482,433千円増加した一方、買掛金が173,102千円減少、賞与引当金が99,966千円減少、未払法人税等が69,141千円減少したこと等によるものです。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べて207,640千円減少の3,120,557千円となりました。これは主に利益剰余金が249,718千円減少したこと等によるものです。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,887,398千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動により得られた資金は、371,482千円となりました。これは主に、売上債権及び契約資産の減少335,782千円、仕入債務の減少145,407千円、預り金の増加482,433千円によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動により使用した資金は、249,014千円となりました。これは主に、当社のプロダクトの開発等に伴う無形固定資産の取得による支出223,523千円によるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動により使用した資金は、88,908千円となりました。これは主に、長期借入の返済による支出100,000千円によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日に公表した2024年3月期の通期連結業績予想を修正しました。

詳細につきましては、本日（2023年11月10日）別途開示しました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,853,838	1,887,398
受取手形及び売掛金	1,372,568	1,093,452
契約資産	96,720	40,786
電子記録債権	1,819	1,086
仕掛品	14,133	49,225
その他	150,705	129,110
流動資産合計	3,489,785	3,201,059
固定資産		
有形固定資産	33,590	23,006
無形固定資産		
のれん	514,994	480,758
ソフトウェア	402,528	687,676
ソフトウェア仮勘定	207,615	—
その他	208	181
無形固定資産合計	1,125,346	1,168,616
投資その他の資産		
投資有価証券	532,267	537,847
繰延税金資産	390,540	471,236
その他	67,353	77,299
投資その他の資産合計	990,161	1,086,383
固定資産合計	2,149,099	2,278,006
資産合計	5,638,885	5,479,066

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	513,746	340,644
1年内返済予定の長期借入金	200,000	200,000
短期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	78,307	9,166
賞与引当金	203,800	103,834
預り金	97,765	580,199
その他	152,599	160,197
流動負債合計	1,746,219	1,894,041
固定負債		
長期借入金	525,000	425,000
資産除去債務	39,467	39,467
固定負債合計	564,467	464,467
負債合計	2,310,687	2,358,509
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,188,870	1,205,184
資本剰余金	1,357,087	1,373,402
利益剰余金	717,679	467,960
自己株式	△270	△270
株主資本合計	3,263,365	3,046,276
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,051	8,611
その他の包括利益累計額合計	△1,051	8,611
新株予約権	14,170	14,170
非支配株主持分	51,713	51,498
純資産合計	3,328,198	3,120,557
負債純資産合計	5,638,885	5,479,066

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,191,872	2,424,055
売上原価	1,424,833	1,831,983
売上総利益	767,038	592,071
販売費及び一般管理費	793,723	922,485
営業損失(△)	△26,684	△330,413
営業外収益		
受取利息	7	38
受取手数料	4,661	6,428
その他	521	2,170
営業外収益合計	5,190	8,637
営業外費用		
為替差損	197	81
支払利息	1,244	2,920
雑損失	148	119
営業外費用合計	1,591	3,121
経常損失(△)	△23,084	△324,897
税金等調整前四半期純損失(△)	△23,084	△324,897
法人税、住民税及び事業税	1,765	1,800
法人税等調整額	△15,841	△85,583
法人税等合計	△14,076	△83,783
四半期純損失(△)	△9,008	△241,113
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,717	△215
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,291	△240,898

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△9,008	△241,113
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△425	9,663
その他の包括利益合計	△425	9,663
四半期包括利益	△9,433	△231,450
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,631	△231,235
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,802	△215

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△23,084	△324,897
減価償却費	53,391	116,871
のれん償却額	26,724	34,235
株式報酬費用	3,084	5,670
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△106,522	△88,766
受取利息及び受取配当金	△7	△38
支払利息	1,244	2,920
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	386,919	335,782
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△17,378	△35,156
仕入債務の増減額 (△は減少)	△112,687	△145,407
前払費用の増減額 (△は増加)	△2,483	14,009
未収入金の増減額 (△は増加)	541	△31
前渡金の増減額 (△は増加)	△761	△148
未払金の増減額 (△は減少)	24,122	13,650
未払費用の増減額 (△は減少)	△13,074	13,170
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△89,631	△25,698
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	316	746
前受金の増減額 (△は減少)	1,973	1,631
預り金の増減額 (△は減少)	230,912	482,433
その他	2,979	30,497
小計	366,578	431,475
利息及び配当金の受取額	7	38
利息の支払額	△1,244	△2,920
法人税等の支払額	△74,605	△71,688
法人税等の還付額	—	14,577
営業活動によるキャッシュ・フロー	290,735	371,482
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,058	—
無形固定資産の取得による支出	△143,743	△223,523
投資有価証券の取得による支出	△94,563	—
その他	—	△25,490
投資活動によるキャッシュ・フロー	△239,365	△249,014
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	280	11,092
新株予約権の発行による収入	500	—
短期借入金の増減額 (△は減少)	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△50,000	△100,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	250,780	△88,908
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	302,151	33,560
現金及び現金同等物の期首残高	1,433,692	1,853,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,735,843	1,887,398

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結貸借対照表関係)

当社グループのフィンテック事業領域において、委託者との業務委託契約等に基づいて受領している、利用者からの預り金及びプレミアム分相当の預り金は、連結貸借対照表の「預り金」に含まれており、前連結会計年度の連結貸借対照表の「流動負債」の「その他」に含めて表示していましたが、金額的重要性が増したため、当第2四半期連結会計期間より区分掲記しています。

以上の表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示していた97,765千円は、「預り金」97,765千円として組替えています。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	OMO事業	フィンテック 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,098,027	93,844	2,191,872	—	2,191,872
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,896	2,250	4,146	△4,146	—
計	2,099,923	96,094	2,196,018	△4,146	2,191,872
セグメント損失 (△)	△30,117	△546	△30,663	3,978	△26,684

(注) 1. セグメント損失の調整額3,978千円は、セグメント間取引消去です。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	OMO事業	フィンテック 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,274,722	149,332	2,424,055	—	2,424,055
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,440	1,125	2,565	△2,565	—
計	2,276,162	150,457	2,426,620	△2,565	2,424,055
セグメント損失 (△)	△336,117	△2,533	△338,651	8,237	△330,413

(注) 1. セグメント損失の調整額8,237千円は、セグメント間取引消去です。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、「フィンテック事業」の量的重要性が増したことに伴い、「OMO事業」の単一セグメントから「OMO事業」「フィンテック事業」の2区分に変更しています。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成していません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。